

2023年3月10日

## 世界の人びとのための J I C A 基金活用事業 活動報告書

| 1. 業務の概要  |  |
|-----------|--|
| (1) 事業名   | 「Hands of Patagonia」(チャレンジ枠)   |
| (2) 実施団体名 | Patagonia Expedition   |
| (3) 実施期間  | 2022年4月1日～2023年3月31日   |
| (4) 実施国   | チリ共和国  |
| (5) 活動地域  | Puerto Natales, Magallanes, Chile  |
| (6) 活動概要  | <p>①活動の背景：</p> <p>南米屈指の人気観光地パタゴニア。しかし 2020 年初頭から COVID-19 の影響で地域全体の観光業が壊滅的な打撃を受け、多くの人が長期間無収入状態にある。現地で観光業に携わっている人達は、コロナ感染症の影響で既に 2 シーズンに渡り無収入状態が続いており、なおかつ今後の観光回復の見通しも暗い。長期間のロックダウン、無収入状態、感染不安等、その閉塞感から地元の人達の精神的なダメージも大きい。また、今後ロックダウンが解除されたとしても、女性達は家を離れて職を求める事も難しいため、今回及び今後起こりうる新たなパンデミックの影響を受けにくく、且つ自宅周辺で行える新たな収入確保手段が必要となってくる。</p> <p>そこで、我々はかつてのパタゴニアの主産品である羊毛に着目、これに日本伝統の草木染め技術を活用して付加価値を高めブランディング。地域の新たな特産品を作り上げ、現地の女性達の経済的安定を支援する事を目的とする活動を現地の有志の女性達と開始した。</p> <p>現在、コロナ禍で休業を強いられている観光業に就いている男性たちは、都市部へ出稼ぎに出るなど他の収入源を得ることは可能だが、同様の境遇にある女性たちは家を離れることが難しく、他に収入源を探すことは困難である。この地元を離れられない女性達に、地域のもう一つの生産物である羊毛を活用してパンデミックの影響を受けにくい新たな収入確保の手段を提供する。当初、染色作業未経験者達にこのプロジェクトを実行できるのか予測が困難だったので、クラウドファンディングで資金援助を募り、素材確保から染色、製品化、販売、発送までをテストスケールで実施し、ランスルーで実行可能であることの確認を行った。</p> <p>パタゴニア地方は南米有数の人気観光地であるが、それ故にモノカルチャー化しており観光業以外の産業に乏しく、今回のようなパンデミックに見舞われた場合の経済的ダメージは大きい。その観光業への依存度を少しでも分散させることが出来れば、今後再びこの地がパンデミックに見舞われた場合でも経済的なリスク低減作用が期待できる。</p> |

## ②活動の目標：

現地の主に観光業に携わる女性たちと共に、パンデミックの影響を受けにくい新たな収入モデルを構築する。地元の牧場(エスタンシア)で生産される羊毛を草木染め手法で染色し、オンラインショップで販売する。世界中の編み物愛好家達は大きなマーケットであり、日本の職人の技術支援を得た Natural Dye ウールは、高付加価値製品として安定した収入源となり得る。

染色素材は主に地元で自生する植物等を利用し、地元特産品の特徴を強く打ち出す。また、染色技術については日本の染色職人の方々の指導を仰ぎ、染色の品質向上に努めて、そのバックグラウンドのストーリーを含めてプロセスエコノミー化し収益モデル構築を目指す。

実証段階の諸問題はクリアできたので、規模をスケール化して商業ベースに乗せていくプロセスの検討に入る。その第一フェーズでは活動規模を支援対象者 50 名と設定し、工房等の整備を行っていく。

## 2. 業務実施結果

### (1) 実施した内容

#### 【実施内容】

活動地域となる南米チリ共和国南部、プエルト・ナタレス町近郊の大規模牧場（エスタンシア）より羊毛を購入し、すべて手作業による糸撚り及び天然素材染色工程を経て付加価値を高めた商品生産を行い、オンラインで海外、特に欧米の編み物ファン層へ向けた販売活動を行った。この製品に当地の地名「パタゴニア」の名称と共にブランディングして、パンデミックにより壊滅的な影響を受けていた地域の主要産業である観光業以外の収入源の創出を試みた。

2022 年度第 1～2 四半期には、生産プロセスの確立、オンラインでの試験販売などで一定の成果を見た。

チリ国内には海外向け販売に適した小規模 EC サービスが少ない、海外からの支払いを受け取る手段も限られる、などの問題点などを洗い出すことが出来、効率的な生産プロセスの確立などと併せて今後の課題も見えてきた。ただ、チリでは 2023 年初頭からパンデミックによる行動規制が解除され、プエルト・ナタレス町でも観光業が再開して、町の人たちも再び観光関連の仕事で忙しくなって来た。これにより当プロジェクトの当初の目的である「観光業以外の収入源の創出」の緊急性が下がったため、第 3～4 四半期は活動を休止した。ただ今後も「次の危機」に備え、オフシーズンなど時間的余裕のあるときに当プロジェクトのブラッシュアップを行っていく

### (2) 実施成果：

第 1、第 2 四半期を通じて 10kg 以上の手染め毛糸を生産し、現地の毛糸価格相場を大きく超える 100g 当たり 3000 円という価格設定で欧米諸国へオンライン販売することができた。

第 3～4 四半期は、パンデミックによる規制解除が解除され観光業が再開したので、町に戻り始めた観光客へ直接毛糸製品を販売するチャンネル開拓と、併せて仕入れ済みの生羊毛の手縫り作業を進めた。

当初予定ではこの時期は活動のスケール化のタイミングであったが、現地のパンデミック規制が解除され、生活が平常化へ向かって行ったので当活動を一旦休止とした。

### **(3) 得られた教訓など：**

事前のリサーチで、製品制作までのプロセスのフローは実施可能という確認は出来ていたのですが、このフェーズでは販売、決済及び発送のプロセスの確立を目指した。しかし想定していた通り実施国では利用できる海外 EC サービスも、低手数料で外貨決済できるサービスも無く、中間コストに収益を奪われる構造であった。今後、このモデルをスケールしていくには製品を効率的に現金化するプロセスの確立が課題となる。

### **(4) 今後の活動・フォローアップの方針：**

現地の観光業が再開した今、この副収入モデルの緊急性は下がったが、依然として「次の緊急時」への備えとしての価値は高いと考えています。そのため、オフシーズンなど時間的余裕のあるときに着実に各フェーズの課題を解決しプロセスを固めていく予定です。

現時点で最も高い障壁となっているのが、製品制作後の「海外向け EC サービスでの販売」、「外貨決済」及び「低コストな発送」ですが、IT サービスは日々伸長しているので、これらの点は早晩解決できると楽観しています。例えば決済についても、南米の銀行送金システムは非常に非効率的なので、恐らく暗号資産を利用した決済サービスが先に伸びてくると予想しています。

また、今回の実施国以外でもこの「手染め毛糸モデル」に注目してくれている人たちがおり、現在ボリビア、ペルー、アルゼンチンの辺境地居住の人たちが、このモデルを自分たちで実行出来ないか個別に検討を進めています。このような展開は、私が当初より思い描いていた「辺境地に住む人たちが経済的に自立できる汎用的手段を創造する」という理想の状態であり、この活動を南米、アンデスの様々な地域へ広げていきたい。

## **3. その他(エピソード・感想・写真など)**

### **(1) 活動中のエピソード・感想など**

現地のカウンターパートナーとは、古くからの付き合いでしたが、今回のパンデミックという非日常的状況下で一緒にプロジェクトを立ち上げるという経験をし、よりお互いを信頼した深い関係を築くことができました。また現地メンバーからも、毛糸の糸撚り工程や染色工程で、経験のある年長者に教えを請うという場面などが、新たな世代間のコミュニケーションの機会となったという感想を聞いています。

(2) 活動の写真



パイロット版で作成したアイテム



オリジナルロゴを作成した



羊毛を手紡ぎで毛糸にする



年長者に作業の手ほどきを受ける



生成りの毛糸を様々な天然素材で染色する



染色作業



製品をエアメールで発送する

(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点  
素材購入資金を援助していただいたので、活動開始時の自費負担が軽くなり活動に弾みがついた。

#### 4. チャレンジ枠の伴走支援制度等について

(1) チャレンジ枠で事業を実施した率直な感想を記載ください。

JICA 担当者や伴走支援者の方々から第三者目線での意見を頂き、客観的な発想と気づきを得られました。

(2) 事業計画策定や業務進捗のモニタリング等の際に伴走支援者から受けた助言が本事業においてどのように役立ったか、具体的な事例があればご紹介ください。

既にクラウドファンディングなどで基本的なプロセスは確立出来ていたので、活動モデルの構成に不安は無かったが、担当者や伴走支援者の方にもモデル内容に共感頂けたことが自信になり、期間中ぶれること無く活動を続けられました

(3) 上記 2 点を踏まえ、団体の成長となった部分や活動の成果、本事業を通じた学びや今後の方向性について記載ください

JICA という海外支援活動に非常に深い知見を持っている機関に認められたという点が、活動を続けていく上で大きな自信となりました。このプロジェクトは、地球の反対側にいる友人がパンデミックによるロックダウンで非常に困窮しているのを知り、(私がガイドという仕事でお世話になった)あの街の人たちを何か支援できないかと考えたことから始めた、いわば思いつきのプロジェクトでしたが、多くの方たちの支援と助言を得て、短期間で一応の成果を見ることが出来ました。

今はポストコロナ期に入り生活は平常に戻りつつありますが、いつ次のパンデミックに襲われるかもしれないと考えると、今のうちに現在認知出来ている問題点の解決方法を模索していく必要があると考えています。また、このモデルを南米の他の辺境地区に広めて、微力ながら南米の貧困層の人たちの一助となれるよう努めて行きます。